

自己点検・評価報告書＜平成18年度相互評価用＞発刊にあたって

四国大学自己点検評価企画運営委員会委員長 福岡 登

本学は1992年に産業社会の変化に対応するための学科の再編や学部の新設を行うと共に、男女共学に移行しました。このような大学の新生・再出発に際しては、その理念が確実に実現されているか否かの点検が不可欠であります。このような観点から同年に自己点検評価企画運営委員会規則を制定し、学長を委員長として自己点検評価活動を開始いたしました。第1回目の点検評価報告書は1994年に「四国大学年次報告書＜平成5年度＞—自己点検・評価の視点から—」と題して発刊いたしております。

その後、将来の改善・改革に向けての方策を策定するための組織改革を行い、「点検評価部会」と「改善部会」とを設けました。この組織編成に従って直ちに第2回目の点検評価作業に着手し、1996年に「四国大学自己点検・評価報告書＜平成8年版＞」にまとめました。なお、この点検評価の結果をふまえて、(財)大学基準協会への加盟判定申請を行い、翌年会員に認定されました。

本年度は同協会の再評価の年となっていること、及び同協会が文部科学大臣の指定する認証評価機関となっていることから、2004年度に自己点検評価に着手し2年間の作業を経て報告書を提出し、相互評価及び認証評価の申請を行った次第であります。また、短期大学部は法定認証評価機関である(財)短期大学基準協会に報告書を提出いたしました。昨秋には両基準協会の実地視察を受け、この3月、共に大学・短期大学として適格との認定をいただきました。

しかし、到達レベルの目標を高く置いているため、自己点検の段階で多くの改善のための努力目標を掲げています。これらについてはすでに改善の年次計画を策定いたしておりますし、基準協会からいただいた「助言」についても、来年度改善の重点事項として取り組む予定であります。

本学は地域社会の皆様から一定の信頼をいただいているものと自負いたしておりますが、これまで以上に学生・保護者の期待に応え、高等教育機関としての社会的責任を全うするためには、より多くの方々の智恵をお借りして大学の質の向上に務めなければなりません。皆様には本著「自己点検・評価報告書」にお目とおしくごさきり、ご忌憚のないご意見をお寄せください。私どもは真摯に受け止め、本学の教育・研究改善の取り組みに生かしたいと考えお願いする次第でございます。

2007年3月